

自治会 第61号 あつき

○みんなの手で育てようあすの自治会を

○地域づくりは市民の民主的・自発的な活動から

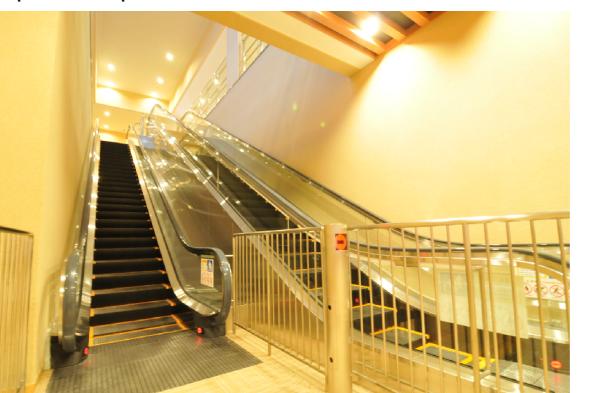
○行政と協働で築く豊かな地域社会



一ナードが設けられ、利用者が利用您的施設となつております。火葬については火葬炉が六基設置され、一日最大十六件まで火葬を行うことができ、現在より対応できる件数と時間帯が増え、将来的には、これから増えると予想される火葬件数に対応するため、最大八基、一日最大二十四件の火葬ができるとのことです。

なお、故人と遺族との最後のお別れを行う告別室については、仕切られた空間が厳粛かつ、落ち着いたものとなつております。今後の告別式の方を踏まえた設計となつております。

式場棟は、葬儀式場が二室（左右対称）造られ、遺族と会葬者合わせて百人が座るこ



とができ、会葬者への飲食の提供を自粛するなど、葬儀の簡素化を図つてゐることでした。去る一月十七日の厚木市自治会連絡協議会の理事による新しい斎場の見学会で実際の施設を目の当たりにし、素晴らしい斎場ができ上がつたと感嘆いたしました。この新しい斎場がオープンできるのも地元の方々の大変なご苦労とご協力があつて初めてであります。感謝の念に堪えません。

新しい斎場が、市民の皆様にとつて利用しやすい施設になることを期待しておまかでございました。

運動会で元気を届ける

森の里は、比較的若いまちですが、ふるさととして子どもたちの思い出作りのために有志の大人たちが活躍してくれています。



動会での応援の様子

祭り、球技大会、夏祭り、運動会、クリスマス祭りといった地区全体の行事は天候にも恵まれ、全て行うことができました。

運動会では、おたのしみ競技と、一丁目から五丁目までの中の対抗競技が行われています。種目は、年齢層に関係なく参加できるように、体育振興会が新種目をひねり出してくれて、盛り上げてくれています。数年前からは応援が盛んになりましたり、伝統的なエールや三三七拍子、子どもたち中心のダンスによる応援などが行われ、それを楽しみに参加してください。お年寄りが増えています。来年も、行事を通じて明るく元気なまちづくりを進めるとともに、地区の結束を強めていきたいと思います。

岡田地区は、東名高速道路厚木インターチェンジ周辺に位置し、市の南の玄関口となつており、マンションなどへの新たな住民の転入も多々受けられます。

このような状況下の中、岡田自治会では、第一から第四までの単立自治会が合同で協

花園作ノビ也の洋装

【相川地区】
岡田第一自治会

岡田地区は、東名高速道路厚木インターの周辺に位置し、市の南の玄関口となっており、マンションなどへの新たな住民の転入も多々見受けられます。このような状況下の中、岡田自治会では、第一から第四までの単立自治会が合同で協

議し、一年間の行事展開により、地域住民の絆を深めています。平成二十一年一月に、相模川河川敷(東名高速上流)で火災が発生しましたが、跡地の約一千m²を県が整地後、市から岡田地区への管理要請がありました。それを受け、岡田自治会では「岡田花壇委員会」を設置し、地域住民にも参加を呼び掛け、花壇整備への取り組みを開始しました。当初は、火災ごみの撤去から始まり、石拾いや耕うんなどに汗を流し、一面の花畠を想像したものでした。昨年度は、延べ四日間の作業に対し約二百名もの参加をいただき花壇堤防への階段をも整備することができました。

今後におきましても、地域住民の方々と一緒に汗を流し、半ばづくりで萬能してま、



地域の力を結集しています

楽しい町内旅行

【緑ヶ丘地区】

以前は隣の一丁目に次いで
市内で二番目に高齢化の地域
だつたが、現在は五番目ほど
でしようか。昭和三十七年、
一面桑畑が広がる地に市内で
最初の尼寺原団地を造成し、
商店街・銀行・郵便局など團
地内で最小限の生活が完結す
る地区として誕生し、若き入
居者を迎えた昭和四十年に緑ヶ
丘と住居表示されました。そ
の後周囲にも住宅が建て込ん
で現在に至っています。

半世紀が過ぎて、当時の活
気は去り入居者は殆ど高齢者
となり静かな住環境のなか、
穏やかに生活し、元気で長生
きの証として高齢化率の高い
のを誇りとしています。

二丁目には集会所がなく、
今でも公民館を利用し、ふる
さと祭りや運動会などは地区



しい町内旅行

行事として参加しています。唯一の行事は町内の日帰り旅行で、大型観光バスの補助席を使うほど毎回好評です。ちなみに昨年は、登戸の旧陸軍研究所資料館、車中でおにぎり弁当を食べながら、次が川崎マリエンで川崎港の展望、ハイライトが日本航空の機体整備工場の見学です。バスクガイドは省略、そのためertzke本番なので、出先でよく不手際があり、後になつてみれば、これも楽しい旅の思い出のおまけにもなります。みなさんが初めての見学ですので、年が明ければ今年は何処?と話ができるあります。実施が晩秋の日の短い時季なのですが、帰路に大都会や京浜工業地区の夜景も楽しめ



コミュニティパーク開園式

お忙しいところのご出席、ありがとうございました。私も林第三自治会に於いて平成十三年に青少年広場が閉鎖して以来、十年間公園のような広場がなく、子どもたちの遊び場、自治会行事の催し場もなく、非常に困つていい状態でした。その間、空き地の地主と三回賃貸の交渉を重ねてきましたが、実現しませんでした。それが一昨年の暮れに、現在林第二自治会会长で林連合自治会代表を兼任しております鈴木清一様より、当自治会内にある借家の跡地（約九〇〇m²）を公園用地として利用してもよい旨の申し出がありました。早速、市の環境みどり部に公園ほかの相談をしたところ、迅速に計画を進めていただき、十一月三日待ちに待った『林大坂上コミニティパーク』として開園の運びとなりました。市長始

自治会館建設完成にあたつて

【南毛利南北区】
宿愛甲自治会会长
建設委員会委員長 塩川一本
恭尚一美尚

め市当局の皆様に、当自治会の窮状をご理解いただき、迅速な対応ありがとうございました。



完成した宿愛甲自治会館

「地域福祉を考えるつどい」を 通して「東日本大震災に学ぶ」

れ、地域コミュニケーションの場として地域の発展に貢献していくよう努める所存です。皆様ありがとうございました。

福祉を考えるつどい



玉川・森の里地区で共同開催した
「地域福祉を考えるつどい」



孤独死対策実行委員会のみなさん

吾妻町自治会は小鮎川と国道412号の間に建設された県営住宅二十一棟と市営住宅二棟を含む県と市の合同住宅で、満室であれば七百九十九世帯の団地です。学校区は戸室小学校と林中学校です。吾妻町自治会は昭和四十七年十一月に設立、現在に至つております。当町は働き盛りの人達で溢れ、子ども会も活発に活動しており、町内が五ブロックに編成され、女子はドッジボール、男子はソフトボールの対抗戦とそれこそ今考えると、夢のまた夢といった状況でした。その後この団地も変遷を重ね、今では少子高齢化の最たる団地に変貌しました。そこの今は高齢化の象徴的な課題

孤独死対策を考える

孤独死対策を考える

厚木北地区
吾妻町自治会

題である孤独死問題に触れてみたいと思います。

健康推進ハイキング

蘇れよ高齢者

【睦合北地区】
三田宿舍自治会
会長 山之上 郁子

私の所属する自治会は、睦合北八団体の中で高齢者の一人暮らしが一番多い三田宿舎です。高齢者の傾向として、テレビを見るとはなしにつけたままにし、あまり外出せずに家に閉じこもってしまう方が多く見受けられます。この方々に、何とか目を外へ向けて欲しいと思つていた所に、地域福祉推進事業の一環として、ミニデイサービスのイベントが始まりました。

林坂大上

【睦合西地区】
林第三自治会
会長 千田 紹生

はじめに、神奈川県立厚木西高等学校柏木義隆校長先生から、震災後一か月後の現地を撮影した写真や動画を通して、被災地の現状を報告していただきました。これらの映像は、テレビ等で紹介されなかつたことや実際に見聞きしたことなどが語られ、眞実の迫力があり緊迫感が会場内に漂いました。

続いて、吉村恭一さん(横浜災害ボランティアネットワーク)

れ、地域コミュニケーションの場として地域の発展に貢献していくよう努める所存です。皆様ありがとうございました。

（玉川地区）
大畠・日向川一部自治会
会長 小原田 平三郎

平成二十三年三月十一日に発生した東日本大震災における未曾有の被害に、自然災害の恐ろしさを改めて思い知らされました。そこで、東日本大震災を教訓に、地域・人との絆を考えようと、『災害時の地域のネットワークを考える』をテーマに、毎年、森の里地区と共同で実施している「地域福祉を考えるつどい」

（地域福祉を考えるつどいを通じて）東日本大震災に学ぶ

会議代表）により、テーマに沿った講演が行われました。吉村さんは、阪神・淡路大震災のあつた現地を何度も訪れていました。吉村さんは、阪神・淡路大震災の直後のこと、ボランティアとの関わりなど、実際の体験に基づくもので、とても説得力がありました。また、地域の情報収集のため、マップ作成等のアドバイスをいただきました。

災害はいつ来るかわかりません。病気や怪我で、自分で避難できない人、家族の人が留守で避難することが不可能な場合、やはり隣近所の力が一番必要になると思います。それから自治会、警察、消防、行政の協力を得て地域ネットワークを構築することが必要だと思います。

終わりに、この度、被災された皆様に心よりお見舞申し

なりました。自治会の健康推進ハイキングの目的は、子どもから高齢の方まで参加でき、夏祭りなどの自治会活動と同様、地域の方々との親睦を深めることを優先しています。今年も参加される会員の体力に合わせ、いつしょに楽しく歩ける健康推進ハイキングの計画を進めたいと思っています。

A photograph of a man giving a presentation. He is standing behind a wooden podium, holding a small object in his hands. He is wearing a dark jacket over a light-colored shirt. Behind him is a whiteboard with Japanese text. The audience is seated in rows of chairs, facing the speaker. The setting appears to be a lecture hall or conference room.

玉川・森の里地区で共同開催した
「地域福祉を考えるつどい」